

電子音楽の現在 三 Present from Electro Acoustic Music 3 Concert

research session for for koto 6

clunusica 15th concert clunusica friendship charity

光の隧道
The Tunnel of Light

花如
quasi flos

鏡のむこうに
Through the Looking-Glass

明月楽 弐之巻
Bright Moon Music Vol.2

自然ー凜ー自然
Naturell-Courage-Naturell

沈黙の月
Silenziosa luna

玉
Bach

真聲花如
vox verum quasi flos

Requiem
8ch-version

Carlo FORLIVESI カルロ・フォルリヴェジ

中村典子 NAKAMURA Noriko



cosponsored by Istituto Italiano di Cultura di Osaka

featuring アキム・ボルンヘフト Achim BORNHOEFT with 箏・十七絃箏 麻植美弥子・ファゴット 中川日出鷹 [平成 26 年度京都市芸術文化特別奨励者]

2015 3.28 [Sat.] 14:00 [open 13:30] 京都市立芸術大学大学会館ホール KCUA University Hall アフターレクチャー15:30- admission free[入場無料]

[作曲専攻対象]

電子音楽の現在3



Present from electro acoustic music

カルロ・フォルリヴェジ Carlo Forlivesi [イタリア国立ロディ音楽院教授]

イタリアの作曲家、演奏家、研究者。ボローニャ出身。ボローニャ国立音楽院を経て ミラノ・G・ヴェルディ音楽院を首席で卒業、作曲修士号を取得。ローマ・アカデミア・聖チェチリアで作曲博士号を取得。フランスのIRCAM(ボンピドゥーセンター、音響音楽研究所)ブーレーズ、ドゥティエ、ファーニホウ、グリゼイ、ハーヴェイ、リゲティ、マヌリ、ムライ、リセ、ストロッパ、クセナキス、リゲティ、ジョルディ・サバル等に師事。デンマーク政府特別研究員としてDIEM(デンマーク電子音響音楽研究所)でコンピューター音楽の研究を深めた後、日本政府文部科学省政府給費生として、東京音楽大学大学院で湯浅譲二に師事。またアイヌ音楽の研究に取り組み、論文を発表。2005年アメリカフルブライトミッション研究員としてノースウェスタン大学でオーガスタ・リード・トーマスに師事し研究。多数の受賞のほか、日本伝統音楽と舞踊、アイヌ音楽分野で研究を重ねる。作品は世界各地の音楽祭、劇場で定期的に上演されている。オーケストラ、合唱、室内楽、舞踊音楽、電子音楽、日本伝統楽器のために作品が書かれている。東京藝術大学先端芸術表現科、パリ国立音楽院、ソルボンヌ大学、アデレード大学、メルボルン大学、京都精華大学、大阪音楽大学、京都市立芸術大学で講演。2011年のRadio FranceのINA-GRMのフェスティバルでアコースモニウム上演された電子音楽「レクイエム」は2012年5月23日には本学学生会館ホールで8ch versionで上演。キャリア音楽院、アドリア音楽院、モデナ音楽院を経て現在、イタリア国立アドリア音楽院教授。IRCAM,DIEMで制作し、世界各地で上演。現在、INA-GRMで制作中。カルロ・フォルリヴェジによるelectro acoustic music電子音楽の現在についてのWorkshopの第3回。2011年3月11日に起きた東日本大震災を起点に、electronicsについて、人間について、表現について再考する機会とします。

[担当:京都市立芸術大学音楽学部作曲専攻中村研究室 phone:075-334-2363]

2015年 **3月29日** (日) 10:00-16:30 京都市立芸術大学学生会館CM室 KCUA University Hall,Computer Music lab. 協力:イタリア文化会館大阪